

KSKQ

エヌピーオー NPOちゅうぶ 通信

ねん がつごう
2024年8月号



By Akie & Ayu

岸田首相 優生被害者へ謝罪
強制不妊 原告に首相謝罪 新聞
小泉法相 旧優生保護原告らに謝罪 NEWS
優生保護法問題全面解決要求書
歩道と車道の段差に関する意見交換会開催
なんば おにごっこ 7 10.5 チラシ
バリアフリー演劇祭 9.15~16 チラシ
今川ちゅうぶ寄席 目で聴く落語 9.22
能登半島地震募金活動をしています 来て！

オニたちの海水浴 24 海企画報告
ちゅうぶを語る 事務局 中野陽介さん
矢田北小学校6年生との交流 授業報告
自分の想いを乗せて走らそう ミニ四駆
ナビゲーション
夏のカラオケ
寛子の部屋
協力会費 カンパ
編集後記

きし だしゅしょう
岸田首相

ゆうせいひがいしゃ しゃざい
優生被害者に謝罪

じょせききかん しゅちょう と さ ぜんそしょうわかい
除斥期間の主張を取り下げ 全訴訟和解へ

ゆうせいしそう さべつ こんぜつ と く やくそく
優生思想 差別を根絶する取り組みを約束

7月17日 岸田首相が優生保護法問題の被害者と面談し、謝罪した。ちゅうぶから、松倉と堀が参加した。

首相は、一人ひとりに、深く深く謝罪すると丁寧に謝った。

7月3日の最高裁の判決はすべての被害者を救うことのできる道を拓くもので画期的だった。そして、首相が謝罪をするという場面、本当に歴史が動く瞬間へ立ち会っているという感動があった。

原告が一人一人発言された。6年半にも渡る長い闘いの苦労、6人の方が勝利を聞くこともなく無念の思いで亡くなった。これから全面救済に力を尽くしてほしいなどの発言があった。

東京原告 北さん(きたいさん)国としてしっかり責任をとってほしい。無念の思いで生きたくない人も多いと思う。その人たちに謝ってほしい。

兵庫原告 小林さん(こばやしさん)長い間我慢ばかりしてきた。どうか聾者の苦しい人生を理解してほしい。国の責任で差別のない社会をつくってほしい。

愛知原告 尾上さん(おのうえさん)差別のない社会をどうか広めてほしい、新しい法律を作っていただきたい。心に蓋をしたままの人人がたくさんいる。その人たちも考えてほしい。



優生連の共同代表 藤井克徳さんから、「なぜ違憲な法律が生まれ、半世紀続いたのか、第三者性を担保して検証してほしい。早期の全面解決を求める。」とコメントがあった。

そして、岸田首相は最後の挨拶で、①除斥期間の主張を取り下げ、すべての訴訟について和解する、②新しい補償の仕組みを創設する(幅広い救済、配偶者も範囲に含む、補償額について確定判決を踏まえ検討)、③周知徹底の在り方について検討する、④事実と再発防止の検証を行う、⑤優生思想、障害者への偏見・差別の根絶(教育・啓発を含む)に向けて各省庁で取り組みを構築すると約束した。

旧優生保護法により、強制不妊手術2万5000件、人工妊娠中絶5万9000件、合計8万4000件もの手術が行われた。訴訟に提起できた人は39名、一世帯金支給法で認定された人は1119名にとどまる。

差別によって沈黙を強いられてきた人の早急な救済が必要である。



全国優生連、全国弁護団は、①基本合意の締結、訴訟全件の早期和解に向けて全力で取り組むと共に、②補償新法の創設に向けて、議連、関係各省庁と協議を進めていると聞く。

大阪でも、知事の謝罪、被害者の掘り起こし調査、救済への支援について、要望活動を行う予定である。(文責:堀)

- ・「除斥期間」主張撤回、係争中の訴訟の和解
 - ・訴訟を起こしていない人にも補償を検討
 - ・本人に加え配偶者の補償も検討
 - ・判決を踏まえ十分かつ適正な賠償額を設定
 - ・補償に際し周知徹底のあり方を検討
 - ・客観的検証実施の検討
 - ・偏見、差別の根絶に向けた教育・啓発の強化のため各省庁による新体制を構築
 - ・関係府省と被害者らの継続的な協議の場設定
- 首相が原告らに「約束」したこと



原告らと面会し、頭を下げる岸田文雄首相（右端）
＝17日午後4時15分、首相官邸、岩下毅撮影

「政府の責任 極めて重大」

■首相官邸にはこの日、原告や家族、弁護団ら約130人が訪れた。首相は冒頭「旧優生保護法に基づく施策によって（旧法廃止までの）約48年間、少なくとも約2万5千人の方が不妊手術という重大な被害を受けたことは痛恨の

■首相が除斥期間の主張撤回を表明したこと、多くの訴訟は和解に進むとみられる。政府による救済がようやく実現へ動き始めた。

旧優生保護法（1948～96年、旧法）下で障害がある人たちに不妊手術を強制したのは違憲と断じた最高裁判決を受け、岸田文雄首相は17日、原告らと首相官邸で面会し、「政府を代表して謝罪を申し上げます」と述べた。係争中の訴訟について、不法行為から20年で賠償請求権が消滅する「除斥期間」の適用を求めてきた国の主張を取り下げる考えも表明した。▼3面＝救済へ新法焦点

強制不妊 原告に首相謝罪 「除斥期間」主張を撤回

超党派の議員連盟と調整

極みだ」と述べ、「同法を執行してきた立場として、執行のあり方も含め、政府の責任は極めて重大だ。心から申し訳なく思っている」と頭を下げた。

その上で、新たな方針

として、除斥期間の主張の撤回▽訴訟外の人を含めた幅広い補償▽配偶者の苦痛も視野に補償を検討▽優生思想や障害者への偏見、差別の根絶に向

し、早ければ秋の臨時国会で関連する議員立法の成立を図る方向だ。首相との面会で、16歳の時に説明なく不妊手術を受けた飯塚淳子さん（仮名、70代）は、「希望の光が見えてきたが、私の人生は返つてこない。心の底から謝罪したい」と訴えた。

（伊藤、70代）は、「希

望の光が見えてきたが、私の人生は返つてこない。心の底から謝罪したい」と訴えた。

小泉法相 旧優生保護法原告らに謝罪「差別や偏見根絶へ対策」

NHK2024年8月2日 19時27分

小泉法務大臣は、旧優生保護法をめぐる裁判の原告らと面会し、政府として謝罪した上で、法務省が先頭に立って、差別や偏見を根絶する恒久的な対策を打ち出していく考え方を示しました。
旧優生保護法は憲法違反だったとする最高裁判所の判決を受けて、小泉法務大臣は、2日、法務省で原告や関係者およそ90人と面会しました。

冒頭、小泉大臣は「政府の責任は極めて重大で、多くの方々が心身に多大な苦痛を受けてきたことを真摯（しんし）に反省し、心から深く謝罪する」と述べました。

その上で、「すべての国民が病気や障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重しながら共生する社会の実現に向けて全力を尽くす」と述べました。



そして原告らから、すべての被害者への速やかな補償や、差別や偏見の根絶に向けた教育・啓発の実施などを求める要求書を受け取りました。小泉大臣は、およそ2時間にわたって被害者らの悲痛な訴えに耳を傾けたあと、「法務省は大きな過ちを犯した責任を負っているので、先頭に立つて政府を引っ張り、差別や偏見を根絶する恒久的な対策を打ち出していく」と述べました。

原告 “解決が遅れ苦しんだ”

面談に参加した原告からは、国が責任を認めず解決が遅れたことで苦しんだと訴える声が上がりました。

25年以上前から被害を訴え続けていた宮城県に住む飯塚淳子さん（仮名）は、「国はなぜもっと早く責任を認めることができなかつたのですか。最高裁でいい判決が出てやっと希望の光が見えてきましたが、私の人生は返ってきません。私が長い間どれだけらいついで生きてきたか、分かっていただきたいです」と時折、声を詰まらせながら訴していました。

福岡県の朝倉典子さん（仮名）は、不妊手術を受けさせられた夫の彰さん（仮名）が裁判の途中で亡くなつたことについて「子どもを産めないことは誰にも言えず、妻の私も夫と同じ苦しみを持ち続けてきました。裁判をやりたいと言つた夫は亡くなり、勝訴が決まるまで一緒に闘いたかったです」と話しました。

弁護士「各地の訴訟で一日も早い解決を」

原告と弁護団は、小泉法務大臣との面会のあと都内で会見を開きました。

宮城県に住む飯塚淳子さん（仮名）は「言いたいことは少し言えたかなと思います。謝罪してもらってよかったです。ですが、年をとっているので、早く解決に向かってほしい」と話していました。

東京に住む北三郎さん（仮名）は「大臣に謝罪してもらつても、やっぱり納得できません。68年間のつらい思い出が消えるわけではありません。ここに来ることができなかつた2万5000人の被害者がいるので、補償の全面解決と、差別の解消をお願いしたい」と話していました。

東京弁護団の関哉直人弁護士は「法務大臣のきょうの発言と謝罪を受けて、国には各地の訴訟で一日も早い解決に向けて動いてもらいたい」と話していました。

ないかくそうりだいじん
内閣総理大臣 岸田 文雄 殿

れいわ
2024(令和6)年7月17日

さいこうさいだいほうていはんけつ
最高裁大法廷判決を受けての
ゆうせいほごほうもんだい
優生保護法問題の全面解決要求書

ゆうせいほごほうひがいぜんこくげんこくだん
優生保護法被害全国原告団
ゆうせいほごほうひがいぜんこくべんこくだん
優生保護法被害全国弁護団
ゆうせいほごほうもんだいぜんめんかいけつ
優生保護法問題の全面解決をめざす全国連絡会(優生連)

れいわ
2024(令和6)年7月3日の最高裁判決を受け、優生保護法問題の全面解決のため、
すみ
速やかに以下の対応を行なうことを要請します。

だい
第1 政府・国会による謝罪及び決意表明

1 内閣総理大臣談話の発出及び今後の対応に向けた決意表明

ないかくそうりだいじんなんわ
内閣総理大臣談話を発出し、国としての謝罪の意を表明するとともに、今後の対応に向けた
けつじ
決意（訴訟事件の早期解決及び全被害者の被害回復のための法律制定、恒久対策（被害回復、
さいはつぼう
再発防止、偏見差別の根絶に向けた諸施策等）を検討するための協議の場の設置等）を対外的に
ひょうめい
に表明すること

2 国会における謝罪決議

こっかい
国会として、あらためて原告ら及び全被害者に対し謝罪を行うこと

だい
第2 全被害者に対する被害を償うに足りる一日も早い賠償・補償の実施

1 訴訟の解決に向けた基本合意の締結

しょかんちよう
所管庁（こども家庭庁）担当大臣・長官が、優生保護法被害全国原告団・弁護団との間で、
そしょく
訴訟の全面解決に向けた基本合意を締結すべく、直ちに協議を行うこと

2 全被害者に対する被害を償うに足りる補償法の制定

せんひがいしゃ
全被害者に対する被害を償うための補償法を速やかに制定すること

3 被害者への情報の周知の徹底

せんひがいしゃ
全被害者への補償を実現すべく、調査、広報、周知（個別通知を含む）等を徹底すること

だい
第3 恒久対策の実施

1 真相究明、再発防止のための検証の実施

しんそうきゅうめい
二度と同じ過ちを繰り返さないとともに、次項の施策を推進するため、被害当事者団体、
べんごだんおよ
弁護団及び第三者から構成される機関により、（一時金支給法第21条に基づく「調査」にと
まらない）旧優生保護法に基づき推進された優生施策及び当該施策の社会への影響等を含む
「検証」（提言を含む）を実施すること

2 偏見差別の根絶にむけた立法措置及び教育等の施策の推進

ゆうせいし
優生思想及び障害者に対する偏見差別の根絶に向け、立法措置及び教育・啓発等の施策を
じつし
実施すること

3 繙続的な協議の場の設置

ひがい
被害の回復、優生思想及び障害者に対する偏見差別の根絶に向けた施策の検討など、優生
ほ
保護法問題の解決のための諸課題について、優生保護法被害全国原告団・弁護団及び関係者
ゆうせいれいんどう
(優生連等)と、関係各省庁との継続的な協議の場を設置すること

歩道と車道の段差に関する意見交換会 開催

これまでの経過

ちゅうぶでは、歩道と車道の段差の問題について取り組んできました。

歩道の段差は、国土交通省の基準により標準2cmと決まっています。これは、車いすでも支障の少ない段差で、かつ、視覚障害者が認識できる段差という考え方です。しかし、工事の状況によっては、2.5cm以上～4cm近くの段差が多く発生しているので、車いす障害者にとっては危険な状況が続いています。

特に、近年、新しく工事したところの段差が高くなっている傾向が顕著になってきたので、大阪市とも話し合いを続けてきました。そして、現在、実施中の大阪市の基本構想においても、天王寺、新大阪、梅田、なんばの各地区のどこにも危険な段差があることを、ちゅうぶの段差戦隊ジメンジャーが調査し、基本構想での解決を求めてきました。具体的には、視覚障害者、車いす障害者の双方にとって利用しやすい段差(縁石の形状)を検討できる場を設定するように強く、意見反映してきました。

基本構想で検討を約束し、検討会(意見交換会)を開催してくれた

大阪市は、昨年度末に検討の場を作ることを約束し、24年7月8日に第1回検討会(意見交換会)を開催しました。

検討会の構成としては、視覚障害者4名(弱視、全盲)、車いす4名(手動、簡易電動、大型電動)、日本歩行訓練士会1名、障害者団体支援者2名、行政(道路課4名、障がい福祉課1名)という陣容です。

検討会では、大阪市の本気を感じました。課長以下の担当ライン全員が出席いただき、国内、国外の実態を調査したデータを用いての検討を行うことができました。

段差構造が圧倒的に多い(79自治体)、でもスロープも結構ある(32自治体)

規則では、標準的基本的な構造は2cmの段差ですが、障害者の意見を聞き、地方の実情に応じて工夫ができることになっています。大阪市は、これを類型化して、①段差構造(兵庫県、東京都板橋区、佐賀県など)、②スロープ構造(品川区、熊谷市等)に

歩道と車道の段差に関する意見交換会

第1回ワーキング

OSAKA CITY
大阪市

論点1：国内外事例の共有

- 国内においては、“移動等円滑化ガイドライン”で示されている「2cm段差」に準拠している自治体が過半数を占めています
 - 2cm段差でない自治体及び海外事例(先進国)を調査した結果、3類型でした
- 類型①：段差構造
類型②：スロープ構造
類型③：段差とスロープの併用構造

類型	イメージ図	代表自治体名	国内自治体数	海外国数
段差構造 (ガイドライン準拠2cm、段差縮小1cm、傾斜段差、段差+スロープ)		大阪市、岡山市、京都府	79	6
スロープ構造 (スロープ、凸/凹/凸凹付きスロープ)		兵庫県、板橋区、佐賀市	32	7
段差とスロープの併用構造 (通行帯の分離併設、切り欠き併設)		品川区、熊谷市、スウェーデン	9	2

※詳細は資料集に記載

段差とスロープの併用

(通行帯の分離、切り欠

き構造)は困難

段差を切り欠くなどして、一部をスロープ化する構造は、ねらった部分を使ってうまく歩行できると限らないので、非現実的という意見が多かったです。

だんさ こうぞう
段差の構造だけでな
ざいしつ いろ
く、材質、色などのト
だいじ
ータルが大事

しゃくしょくかいしゃ
視覚障害者にとって、
だんさ あしゅら
段差だけでなく、足裏で
かんどうろ ざいしつ ちが
感じる道路の材質の違い
や、段やスロープの突起
けいりょう じゃくししゃ
の形状、弱視者にとって
いろ ちが
は、色の違いなど、トータ
ルが大事という意見が多
かつたです。

くるま
車いすのキャスター
こうばい
のひっかかりや勾配

とうきょうとちゅうおうく こうばい
東京都中央区の勾配は5
パーセント くるま
0%ときついために車
いすがバウンドするよう
な危険を感じるという
感想もありました。また、
わかりやすくする突起は
くるま 車いすのキャスターにひ
つかからない心配も示
されました。

しゃくしょくがいしゃ くるま
視覚障害者、車い
しょうがいしゃ いっしょ
す障害者が一緒に
けんしょうかい じっし
検証会を実施

じかい 次回には、スロープの
こうばい ちが とつき
勾配の違いや突起の
けいじょう ちが ざいしつ ちが
形状の違い、材質の違い
などを、みんなで検証会
じっし を実施する予定となりま
した。

おおさかし また、大阪市からは、
まず、基本構想の対象工
りょう ぶぶん
アの主要な部分について、結論を踏まえて改修
げつろん かくじゆ
することを目指すという
かんが かた しめ
考え方が示されました。

類型①：段差構造

ガイドライン準拠 (2cm段差)	段差縮小 (1cm段差)	傾斜段差	段差+スロープ
大阪市	京都府	東京都中央区	土浦市
構造 縁端高さ2cm 背面高さ2cm 	構造 縁端高さ1cm 背面高さ1cm 	構造 縁端高さ0cm 背面高さ2cm 勾配50% 	構造 縁端高さ1cm 背面高さ3cm 勾配10%
表面加工	表面加工	表面加工	表面加工

メリット：ある程度の段差があると視覚障がい者が歩車道境界を認識しやすい
普及率が高い縁石であるため、安価に施工可能(2cm,1cm段差の場合)

デメリット：段差が大きいと車いす利用者にとって歩道乗り上げが困難
背面高さが1cmや3cmだと歩道全体の勾配改修が必要となる

6

類型②：スロープ構造

スロープ	凹凸付きスロープ	
佐賀市	兵庫県	板橋区
構造 縁端高さ0cm 背面高さ2cm 勾配15% 	構造 縁端高さ0cm 背面高さ2cm 勾配12.5% 	構造 縁端高さ0cm 背面高さ2cm 勾配13.3%
表面加工 滑り止め加工	表面加工 深さ3mm横溝(8列)	表面加工 高さ5mm突起(3列)

メリット：車いす利用者にとって歩道乗り上げが容易

デメリット：単にスロープ化したものは視覚障がい者が歩車道境界を認識するのに困難
突起(高耐久性ゴム製)付きスロープは製品が高価である
※車両の頻繁な乗入がなければ突起(高耐久ゴム製)の耐久性は問題なし(メーカーヒアリング)

7

類型③：段差とスロープの併設構造

通行帯の分離併設		切り欠き併設
品川区	スウェーデン	熊谷市
構造 一部の歩車道境界ブロックをスロープ構造のブロックに置き換える	構造 歩車道境界を0cmと6cmに分離し、6cm段差の方に点字ブロックを設置	構造 車椅子のキャスター幅に合わせてスロープ状に切り欠いている スロープ部両端を着色
表面加工	表面加工	表面加工

メリット：車いす利用者と視覚障がい者の両者に必要な機能を併せ持つ

デメリット：「通行帯の分離併設」は、歩行者の量等が多いとスロープ部まで行きづらい場合もあり、車いす利用者等にとって使いづらい場合もある。
「切り欠き併設」は、車いす(大人用と子供用等)とベビーカーのように車輪幅が異なると、使いづらい場合がある。
車いす利用者と視覚障がい者の動線を分けるため、誘導ブロックの再設置が必要

8

まち田 やつぱつおもしろい なんば おにごっこ

なんば・ヨク目のバリアフリーをあつけよう!

2024
10.5 Sat.
10:00～16:00

イノクル・ジーンズ
-失われた〇〇を探せ！-

高島屋とマルイの間にある なんば広場に集合せよ！

2019年から中断されてきた【なんばおにごっこ】

が帰ってきた！

コロナ禍の間、更にバリアフリーになったなんば・ミナミ。新しいエレベーターやスロープも体験しながらポイントを回って、最後はリバープレイス（なんばハッチ）ではじけよう！

参加費：500円



●主催：なんばおにごっこ実行委員会 連絡先：TEL：06-4703-3740 / FAX：06-6628-0271 (NPO法人ちゅうぶ)

●共催：千日前商店街振興組合 / 障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議（障大連）

●後援：道頓堀商店会 / 心斎橋筋商店街振興組合 / 戎橋商店街振興組合 / 宗右衛門町商店街振興組合 / 千日前道具屋筋商店街振興組合 / 道頓堀商店街振興組合 / 大阪市中央区商店会連合組合 / 難波センター街商店街振興組合

権藤説子 PRESENTS 誰もが楽しめる バリアフリー演劇祭2024 IN OSAKA

字幕、音声ガイド、舞台手話通訳を付し、あらゆる人が楽しめるバリアフリー演劇です。

誰もが、

【1日目(15日)】
 11:00 受付
 11:30 舞台説明
 11:50 開会式 あいさつ
 12:00 オープニングアクト
 うたごえ喫茶 【すまいるのクラブ】
 12:30 劇団夢屋公演
 【妖怪パリヤーをやっつけろ!】
 13:10 休憩
 14:10 東京演劇集団 風公演
 【ヘレン・ケラー】
 16:40 閉会あいさつ

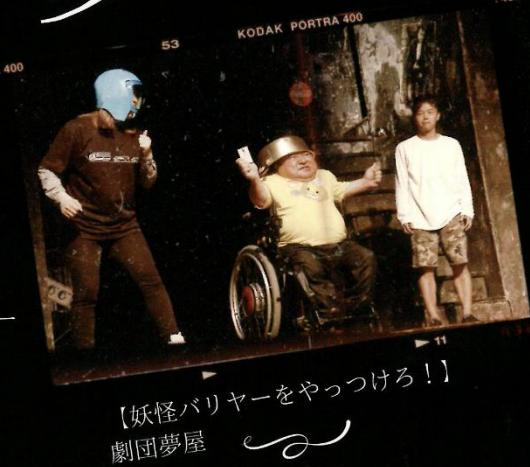
【2日目 (16日)】
 10:00 受付
 10:30 舞台説明
 10:50 開会式 あいさつ
 11:00 オープニングアクト
 ダンス 【ONE TRIBE】
 11:15 ばあとなあ劇団公演
 【ももじろう】
 11:45 休憩
 13:00 東京演劇集団 風公演
 【ヘレン・ケラー】
 15:30 閉会あいさつ



【鑑賞サポート】

- 舞台上での手話通訳
- 舞台背景にバリアフリー日本語字幕
- ライブ音声ガイド
- 舞台説明あり
- 事前資料貸し出し

夢中になれる



2024年 9月 15日(日) 16日(月祝)

森ノ宮医療大学体育館 (大阪市住之江区南港北1-26-16)

※各日のタイムスケジュールは裏面を参照してください

【主催】第2回バリアフリー演劇祭実行委員会

【共催】OSAKA IL7 一般社団法人 東京演劇集団風研究所



目で聴く落語

～聴こえない人も、聴こえる人も、楽しんで～

第2回 今川ちゅうぶ寄席

寄席芸人とお笑い福祉士の競演！



笑福亭學光



桂八十助



豊来家大治朗

要約筆記と
AI音声認識による
字幕つき

日時 2024年 9月22日 (日・祝)
14:00～16:00 (開場 13:30)

場所 NPOちゅうぶ 4階ホール
大阪市東住吉区田辺5-5-20

料金 1,000円 (介助者無料)

要参加申し込み(定員50人)

会場準備のため、申し込みフォーム（右のQRコードから）か、下記のNPO法人ちゅうぶまでお申し込みをお願いします。

※申し込み〆めきり：9月20日(金)



●主催 NPO法人 ちゅうぶ

TEL : 06-4703-3740 FAX : 06-6628-0271 MAIL : chubu@npochubu.com



のとはんとうじしんほきんかつどう 能登半島地震募金活動をしています！！ 来てください！！

ことし がつ かぜききん ちゅうしん まいつきいつかい ぼきんかつどう
今年の3月ぐらいから「ゆめ風基金」が中心となって、毎月一回なんばで募金活動しています。

ちゅうぶの他「出発の仲間の会」「夢宙」などのメンバーと行っています。なんばの歩行者天国と法善寺横丁に分かれて、いつも 15人ぐらいで横断幕を広げて活動しています。



ひとりひとり おも
一人一人の思いをメガホンでアピールしています。
かんばん にほんご えいご ちゅうごくご かんこくご か
看板も日本語、英語、中国語、韓国語で書いていま
す。
にほんじん がいこくじん しょうかれいしゃ ひと いろ ひと ぼきん
日本人や外国人、障害者の人など色んな人が募金
あつ いちにち はや ふっこう ほ
をしてくれます。暑いけど一日でも早く復興して欲し
いので、これからも続けていきたいです。



じかい がつ にち とようび
次回は9月28日(土曜日)
14:00~16:00@なんば歩行者天国
良かつたら、覗きに来てください



ぶんせき なかむら
(文責:中村)

かいすいよく ワン ラブ ねんうみきかくほうこく オニたちの海水浴～ONE LOVE～2024年海企画報告

ぶんせき あお はまだ
文責 青おにスタッフ濱田

ひさ すま だいしゅうごう ■久しぶりの須磨ビーチに大集合！！



ねん がつ にち あかあお うみ きかく すま かいすいよくじょう
2024年8月1日 赤青おに海企画で、須磨海水浴場にいってきました。

ねん か えいとう おおぜい かく おおぜい かいすいよく
2020年からのコロナ禍の影響があり、大勢での海水浴はできなかったの
ひさ おおぜい たの くるま にん かいすいよく
で、久しぶりに大勢で楽しむことができました。車いすユーザー18人、
かいじょしゃ ぞうせい にん かいすいよく
介助者スタッフ32人 総勢50人で海水浴をしました。2017年からお世話
すま かいすいよく さきよりよく あんせんかいてき
になっている須磨ビーチプロジェクトさんのご協力があり、安全快適に
かいすいよく とうじつ こうべし さいこうきおん
海水浴ができます。当日、神戸市の最高気温は35°C、とても暑かったです
あかあお ゾクゾク うみ とつゆう なんじかん あそ
ですが、赤青おにメンバーは続々とビーチマットから海に突入し何時間も遊
んでいました。ちゅうぶの海企画には初めて参加する人も多く、フレッシュ
とき なつ いちばん
なひと時でした。みんな、イキイキしてパワフルになり、この夏、一番アツい
うみ 海になったのではないでしょうか。

■須磨海浜公園、海水浴場の変化

すま かいひんこうえん かいすいよくじょう
須磨海浜公園、海水浴場は2024年6月に全面工事されリニューアルオープン。

あか あお ねん すま かいすいよくじょう
赤おに青おには 2015年あたりから須磨海水浴場を利用していて、

すま かいすいよくじょう へんか
須磨海水浴場の変化をみてきたので、リニューアルオープンした須磨海水浴場の状況に注目をしていました。



・Pゲートは撤去され、車いすの移動がスムーズになった。

こうじまえ せつち ひー てつきよ うかいきより かいしよう
工事前には設置されていたPゲートが撤去され、迂回距離が解消されました。

ひー こと くらま かいひんこうえん かいすいよくじょう いどうきより
Pゲートがある事で、車いすユーザーの海浜公園から海水浴場までの移動距離が

ひー つうか ひと くら かいすいよくじょう
Pゲートを通過できる人と比べ、かなり差がありました。

ひー もくべきち すなはま い てつきよ くわ
Pゲートがなくなると、目的地の砂浜まで、スムーズに行けました。ゲート撤去に加え、

すなはまぞ わた ほそう みち ふ くらま ふ
砂浜沿いまで渡れるコンクリート舗装された道が増え、車いすユーザーのルートが増えました。



・無料のシャワー更衣室

むりょう こういしつ
無料のシャワー、更衣室が男女ともに10室くらい作られていました。

かせつ みめ なか ひろ こういしつ わ
仮設トイレのような見た目だが、中はそれなり広く、シャワーと更衣室に分かれている。

こういしつ お ひよう しうがいしゃ
更衣室にシャワーチェアを置けるくらいのスペースはあり、利用できる障害者メンバーもいました。

ざんわん こういしつ みち すなはま いりぐち だんさ てん いじょう
残念なのは、更衣室までの道が砂浜で、入口には段差があるので、その2点を移乗できる人しか使えないところ。

おおにんずう かいじょしゃ きが つか べんり
大人数の介助者スタッフの着替えにも使うことができて便利でした。

もう少し工夫すれば、もっと多くの人が使えるので、今後に期待。



・多目的トイレが増えた

たもくでき しんせつ しうがいしゃせつ
多目的トイレがある新設の商業施設や貸しスペースができて、須磨海浜公園の多目的トイレの総数が増えました。

■素晴らしい須磨ユニバーサルビーチプロジェクトの人たちと設備

すま みな とうじつ あさ せつち くだ しょうがいしゃ
須磨ビーチプロジェクトの皆さんのが、当日の朝からビーチマットを設置して下さいました。障害者メンバーの障害状況やニーズに

合わせて、適切な入水方法を提案してもらい、移乗補助、見守り、水中での体位保持など様々なサポートをしてもらいました。最低限の数の介助者だけで行くと、どうしても安全重視になり、遊ぶ余裕がなくなりますが、ビーチプロジェクトの人たちがいたらから、障害者メンバーも介助者も存分に、はしゃいで遊べました。ビーチマットプロジェクトとちゅうぶが一体になり、凄いコラボが生まれていました。



◆ユニバーサルビーチのアイテムたち(参考:須磨ビーチプロジェクトHP)

- ・ビーチマット～砂浜の上に敷くマットで、このマットを敷くと電動車いすでも砂浜を移動できて波打ち際までいけます。ビーチ以外にも、畑や神社(玉砂利)など車いすやベビーカー、バギーなどで通行が可能になるマットです。
- ・ヒップキャンプ(水陸両用アウトドア車いす)～ヒップキャンプは、水陸両用アウトドア車いすです。ユニバーサルビーチにまた、海だけでなく、山登りや、木登りも可能にしてくれる、ユニバーサルアクティビティでは欠かせないアイテムです。



・須磨ユニバーサルビーチベース

夏の海水浴期間、障害のある人が無料で利用可能な更衣施設です。
多目的トイレ・シャワー室・更衣ベッド・更衣スペースがあります。



■須磨海浜公園内設備の充実

今回は休憩スペースとして、須磨ホールという一室を借りて、食事や休憩をしました。
当日は猛暑だったので、エアコンが効いた部屋でクールダウンができます。
多目的トイレもあります。



■海企画担当スタッフ濱田のつぶやき

天候、自然環境はコントロールできず、物理的なバリアは多い。障害者メンバーや介助者の安全を考えると、やらない方向になるのが一般的。私たちも海で事故が起きたら、取り返しがつかない事になることは承知で、海企画に挑んでいます。みんな楽しくなって解放されて、はしゃぎまくります。企画担当スタッフの、安全面と段取りを考えた声かけも、聞いているのやら、聞いていないのやら。自然、人間ともにコントロールできない領域が多く、ドキドキハラハラして疲れます。それでも、海企画の活動を続ける理由は、みんなが過去や普段の生活の繰り返しから解放され、エンパワメントされている姿がみれるからです。私たちの活動にご協力、様々な配慮をしていただいた、須磨ビーチプロジェクトの皆さん、ありがとうございました。参加してくれたみなさんありがとうございました。



■エンパワメントフォト



ちゅうぶ 40周年を展望して

これまでのちゅうぶ、これからちゅうぶを語る

～事務局・理事のインタビュー 第6弾 中野陽介さん(事務局)

堀(編集部): 事務局や理事の方に、これまでのちゅうぶを振り返り、ちゅうぶの将来を語っていただくという趣旨です。よろしくお願ひします。

理事兼事務局・総務部兼通所という形で、事業所の運営と運動の両方にがっつり取り組んでおられる中野さんならではお話を聞かせていただけるのではと楽しみにしています。

中野さんの採用は何年頃ですか？

卒論でT4作戦要らないから殺していいのか？！

中野: 2003年12月ごろで、2000年から作業所のパートで関わっていました。当時、僕は京都の金閣寺近くの大学に行っていました。超就職氷河期で、適当に学生時代を過ごした僕はなかなか就職が決まりず、やりたいこともなくという状況でした。

堀:サークル活動でも障害者との関りはなかったんですか？

中野: 軽音楽部でヘビメタをやっていました。当時付き合っていた彼女から、「私とバンド、どっちが大事なの」って言われるほどでした。彼女からは中野くんは卒業したら公務員になるんだよねって言われていて、なんとなく嫌でした。

堀:ちゅうぶとはどういうきっかけで出会ったんですか？

中野: 大学の求人掲示板にちゅうぶが載っていたんです。

なぜ、ちゅうぶに自が止まったかと言うと、実は、僕は卒論で「T4作戦」(編集者注: 1930年代



後半からドイツで障害者に対して行われた「強制的な安楽死」(虐殺)政策)を書きました。当時、脳死になったのに、あらゆる管につながれて、いわゆるスパゲティ状態で生かされることについての賛否として安楽死が話題になり始めた時期でした。僕は西洋史専攻で、第2次世界大戦とナチスドイツとかに興味があって、色々調べていくうちにユダヤ人だけでなく障害者も多数殺されていたことがわかり、そこで出てくるキーワードが安楽死作戦だったんです。安楽死という名のもとに、社会にとって要らないと殺していいのかという問題意識を持っていました。

姉が医療系で、僕も卒論で障害者について考えることもあって、福祉とかもいいなと思っていました。そこに、中部障害者解放センター(現:ちゅうぶ)の案内に自が止ました。連絡すると富田(譲治)さんが出て、「職員は決まつたけど、いろいろ経験できるから、登録ヘルパー

や作業所パートにならないか」と誘ってくれたんです。譲治さんのおかげで、僕はここに居ます。

すべてハウスの時代

堀:印象深い出会いとかありましたか?



中野:最初に関わったのは、山本敏晶さんでした。「中野君、荷物扱いって知ってるか」、「ベルトコンベアの荷物のように僕を扱ってくれる人がいいんだ」みたいなことを言うわけです。

「僕は山本さんを荷物扱いなんかしないですよ」と丁寧に返していたんですが、よく聞くと、施設で4人部屋とか、8人部屋とかでずっと適当に扱われていて、作業所の中で、1対1で介護者に指示を出す関係が疲れるというか、しんどかったんやと思います。

中野:鈴木昌守(故人)さんもおられました。重度の脳性麻痺で言語障害がものすごく強かった。50歳ぐらいまで実家暮らして、お母さんとの子離れ親離れが難しい方でした。最終的には一人暮らしされて、何年か後に彼は癌で亡くなるんですが、すべてで看取り支援をしました。

中野:当時は、今リオの1階が青おに作業所で、2階がすべてハウスというグループホームでした。

山本敏晶さん、久保寛子さん、ちょっと前に高田さん、和男さんも住んでいて、そこから、それぞれ自立していました。

就職氷河期にちゅうぶに

堀:ちゅうぶの職員になったきっかけはなんですか?

中野:職員にならないかと、誘ってくれたことがきっかけです。複数のアルバイトで生計していたので、落ち着きたいという気持ちでした。でも、ちゃんとちゅうぶの採用試験を受けました。面接官は石田さんでした。

堀:当時の試験の競争率はすごかったでしょう。就職氷河期で何十人も面接に来ていた時代でしょう。

中野:そうですね。

でも、石田(事務局長)さんからは、冗談で、君が入ったのは「くじ引きだよ」なんて、言われました(笑)。作業所パートや介護を一生懸命やったことを評価してくれたのだと思います。

自立支援法の闇 生活介護の立ち上げ

堀:採用されてから、通所一筋ですか?

中野:2007年ぐらいまで、青おにに居ました。支援費の上限問題とか、自立支援法の問題なんかがありました。

自立支援法になって、生活介護を立ち上げるという話になり、それに関わりました。その後、実地指導もあり、書類の整備を徹底する必要から、2008年からすべてで書類管理体制を作りました。その後、おにわ(法人本部の建物)の建設の話があり、建設の自途がたって、通所に戻りました。ちょうど、2011年の実地指導にも対応でき、書類管理体制も自途が立ったかなという感じでした。2012年から通所に戻りました。

堀:その後、総務部と通所のかけもちになったのが、2021年ですね。

いろいろ、大変なときに、大変な部署ばかり歩いてこられた感じですね。大変なことが勃発すると、「おーい中野くーん」って、呼ばれてきた感じでしょうか。

中野:いやいや、石田さんが一番大変やったと思うし、平沼さんとか、林さんとかいろいろ助け合いながらやりました。

役割と責任に応じた給与体系に

堀:中野さんがちゅうぶに関わってこれまで25年近くになりますね。中野さんは特に、力を入れて取り組まれたことはなんですか？

中野:当事者の団体は、もともと、志を共にする人たちの手弁当の運動で、お金もそんなにありませんでした。社会的に障害者運動が影響力をもつて認知されてきたけれど、どう運動や事業を持続させていくのかが課題でした。

これまでに辞めていった人が多くて、何人か見送ってきたわけです。

改善するためにには、働く環境を良くすることだと思います。一番は給料ですよね。

初めは年齢給だったので、めちゃくちゃ頑張って



いる30代より、普通に働く50代の方が給料がいいわけです。これは切ないなあって思って、役割と責任に応じた給料体系にしたいと思いました。

評価制度を入れる議論 アンチ能力主義？

堀:年齢給を変えるというのは、当時はとても大変だったのではないですか？

中野:僕は評価を入れたかったんです。責任と役割に応じた給与ということは、何をやれているのかということで、それに責任がついてきていたので、やったことの評価をきちんとするということにつくるわけです。

しかし、評価を入れるにあたっては、ちゅうぶは、アンチ能力主義でやってきていたので、能力で差をつけるのかという批判はいただきました。

堀:能力主義が健全者社会そのもので、それにアンチを唱えていたのが、大阪青い芝の会であり、友人組織ゴリラですものね。（※編集者注：大阪青い芝の会とゴリラはちゅうぶを生み出した組織）

中野:当時の副代表理事の川嶋雅恵（脳性麻痺の当事者）さんには、だいぶん絞られました。「どういうことなの！！」みたいな、喧嘩売っているなんかという感じですよね。

堀:ゴリラも健全者中心主義によって作られた意識や社会を問い直すべきという運動をやっておられた印象があるのですが、元ゴリラの諸先輩方からの批判はなかったですか？

中野:川嶋さん以外はとくに批判はなかったです。ちゅうぶは、運営を任せきるのが難しい障害者が多かったので、健常者は障害者の指示で動くということではなく、一緒にやってきたという経過があって、それが幸いしたと思います。障害者は当事者としての発信力はあっても、運営的なマネジメント力がちょっと難しかったです。

評価制度は、プロジェクトチームで検討してつくりましたが、川嶋さんにも入っていただきました。いろいろ意見をいただき調整してきたわけですが、年に何回か、怒りでうなされて自覚めがありました。分かり合えたというより、必要ですと、押し通した感じもあります。

単なる能力評価にしない

堀：評価制度を作られるのは本当にたいへんだつたのですね。何年頃の話ですか。

中野：2011年ですね。

いろんな議論がありましたが、単にできる・できないという能力評価にならないように、ちゅうぶの理念を理解して、活動しているのかという視点を大事にして評価できるようにしました。

中野：当時は、それなりに本を読んだり、他団体も見に行ったりして検討したのですが、今となっては、作り直す必要を感じています。

評価項目も多く、運用する上で、かなり重い制度になっているので、もっとシンプルで柔軟性に富んだものにする必要があると思っていますが、改革に手がだせていないです。課題の一つです。

組織としての持続力を持つには

中野：それに関連した問題意識では、運動と事業の継続には、組織として持続力をもつ形に整える必要も感じてきました。

堀：理事会、事務局、総会という意思決定機関、各部門長が各部門を管理するという組織形態はちゅうぶの立ち上がりの時から、整備されていたのですか？

ちゅうぶの組織が拡大していくなかで、心を碎いてこられたことはなんですか？

中野：意思決定の組織の大枠の形はだいたい最初

からあったと思います。

各部門できちんと意思疎通が取れて機能するというのが大事だと思ってきました。通所では、チーム作りとか、働くうえで健常者職員がまず連携していけるかとか、人間関係の問題ですね。スタッフで遠足行こうとか、飲み会とか、いろいろしましたが、うまくいかなかったことも多々あります。



みんなが主体的に参加する会議へ

中野：もう一つは会議のやり方です。延々といつ終わるのだろうという会議が多かったです。障害者の現状の情報交換だけで時間が終わってしまって、課題の検討までいかないという問題でした。

堀：情報交換も大事だと思いますが、どうやって、会議を改善したのですか？

中野：ファシリティターやリーダシップの研修を受けたりして、みんなで取り組みました。会議の目的を定める、情報共有なのか、議論の場なのか、アイデア出しなのかをはっきりさせる。それから会議時間を決めるということをしました。

目的と時間を意識して、漫然と聞いているだけでなく、主体的に会議に参加してもらうと早く終わると思っています。

なかの ひと はづけんりょく つよ ひと いけん い
中野：もう一つは、発言力が強い人が意見を言って、
その通りの結論になるのもダメだと思っています。
なので、ホワイトボードに、新人の意見もベテラン
の意見も並列して並べて、どちらがいいのか、みんなで確認できるようにしました。空中戦にしないと
いうことも心がけています。

障害者運動を広げていく軸としての通所

堀：組織としての持続力を持つということは、法人としての基盤をしっかりとすることと、他ならないと思いますが、一方で、通所は学校交流とか、なんばおにごっことかを中心に担ってきています。地域に出て行って、障害者運動を広げていく軸になってくれるのが通所だなと思っています。そのあたりの活動で、大事にしてきたことがあれば教えてください。

障害者の生活を伝える学校交流

中野：学校交流は、部落解放運動のつながりで、矢田の地域とずっと交流を大事にしてきています。以前は、給食と一緒に食べて交流というのをやっていましたが、惰性になって、食べるだけになってきた時期があります。

もっと、障害者ることを知つてもらいたいと、メン

バーを巻き込んで、講演会とか、障害者の生活を話す企画にしようとした。

でも、僕の思いでやっていたので、「当事者主体といいながら、健全者スタッフが出すぎていたのは?、それは良くない」と思つて、メンバーのチーム会議で内容を考えるようにしました。

今は、講演会とか、遊びをテーマに交流したり、松倉さん（通所の聴覚障害をもつスタッフ）が、聴覚障害者の立場で語ったり、いい感じになってきたと思っています。

社会参加のきっかけを作るおにごっこ

中野：おにごっことかは、社会参加のきっかけ作りとしてすごく大事で、開催にあたって、なんばトイレ調査をしたり、障害者が入れるお店を探しに行こうということをしました。

車いすで地下街に降りようと思っても、エレベーターがどこにあるのかわからないという案内表示の課題なんかにも気づくことができました。みんなバリアフリーに関心を持ってくれていいなと思っています。

学生さんに着ぐるみに入つもらつたり、施設に入所している障害者の外出取り組みにもつながつたりして、社会とのつながり作りにも意味があつたと思います。



こういうイベントを通じて、自分たちの運動を発信していくのは大事やなって思っています。

バリアだらけを体験しよう

中野：あと、大事に思うのが、コロナで止まった期間はあるけど、海レク。僕と林さんで言い出して、2008年ぐらいから実施しました。ちょっと無茶なこともしよう！！ バリアフルなところに行って、車いす障害者も海に入ることを体験しよう！！ということをしました。この取り組みで初めて、海に入ったという障害者も何人もいました。

堀：バリアが多いところに行こうというのは、いいですね。障害者にとっては、事業者運営上のことを考え、安全第一で、常にバリアフリーな場所で管理されているのは、なんだか施設的ですものね。そういう挑戦をやれるスタッフマインドでいよう！！というのは、実際の取り組みの中で作っていっているのでしょうか。

中野：スリリングな運動会をやった「おにんピック」とか、バリアだらけの三方五湖に旅行にいって、雑魚寝するとか、秘湯に入ったりもしました。

一緒にちょっとはみ出してみる

堀：そういう体験って、ずっと心に残るし、ちょっとくらいチャレンジングでいいやんと、思えるようになるでしょうね。皆で、はみ出してみるって大事ですよね。そういう取り組みがちゅうぶらしさを作ってきたんじゃないと思いました。

中野：U.S.Jでジェットコースターに乗るのも、介護者がやるで！！と思わないと、なかなか乗れない。今でも悔やまれるのは小坪さんとフライングダイナソーに乗りに行って、僕が少し足を痛めていて、最後に小坪さんを持ち上げて乗せるところで、ひっかかるしまって、「この人やっぱり無理ですよね」って、係員に止められてしまって、乗れませんでした。フライングダイナソーを5分間止めて焦

りましたね。

堀：色々挑戦するってことが、障害者の自立支援につながっていますよね。「お利口さんに通所で過ごしました。今日も変わりありません。」って通所と家の行き来だけなら、新たな体験ができないですね。経験を広げて、「こういう選択肢があるんだ」とか、「これもやりたいって、私も言ってもいいんだ」とか、気づきを得るって大事ですよね。障害者にとって、一緒にみ出してくれる健常者集団っていうのはすごいありがたいと思います。

中野：こずえナイト、木戸ナイト、天神祭りに人が多いからこそ、行くねん！とか、職員もいろいろやってくれているので、ありがとうございます。



女性障害者の活性化

堀：自立支援については、通所で、エンパワメント会議とかおにパワとかいろいろされていますが、自立支援の取り組みで、課題に思っておられることがありますか？

中野：女性の障害者が増やせていないのが課題ですね。それと、リオ入るとか、一人暮らししたいとか、そういう女性障害者が出てきてくれるといいなと思います。今ちゅうぶで自立している女性障害者はベテラン層が多いので、経験を若い人に伝えるような取り組みをしてほしいと思います。女性障害者のところをもう少し活性化したいです。

堀：女性障害者はやはり複合差別的なものもあつ

て、親の意識として、女の子やから…そこまでがんばらなくてもいいとか、守られるべき存在やとか、そういうのがどうしてもぬぐい切れない部分があるんじゃないかな。そこで、「私にとって大事な人生やから、自分で決めさせて」って、言うのが難しい力関係、壁があるように思います。女というのと、障害者と二重の壁。

中野：あると思いますね。箱に入れられている感じ。

堀：障害者だけでなく、スタッフにとっての女性問題もあると思います。社会は、女性には大人しくて従たる存在であることを女性に求めているから、「こんなこと私が決めてもいいのかな」と感じて指示待ちになってしまったり、他の人の意見を求めるすぎたり、前に出るのをためらって後ろに隠れたり、差別されている結果、身についてしまっているところが、あるのでないかな。

中野：世代もあるかなと思います。最近は同調圧力とかも世の中では言われているし。

オモロイこと尖ったこと言ってもいいやん

堀：ちゅうぶは、自分らしく自由に生きていこうと思ったら、やっていける風土がありますよね。

中野：そうありたいと思っていますが、努力がなければ、難しいと思っています。

意見が言いやすい環境を作るとか、上司が言うことが通るのでなく、皆が意見を言い合って決めるとか、心理的安全性が保たれながら仕事ができる環境とか、オモロイこととか、尖ったことを言ってもいいやんという雰囲気を作るのは意識しないといけないと思います。

僕はあまり否定をしないようにしています。

人材育成で大事にしていること

堀：組織の活性化の要は人材育成だと思います。運動しようっていう健常者スタッフが十分育つこ

とがすごく大事やと思うんですよね。新人の研修でも通所はとても大事な役割を果たしていただいていると思います。

人材育成で大事にしておられることはなんでしょうか。

中野：成長の機会として、ひとつの企画を担当して、しっかりやり切ってもらうとか、ちょっと難しそうな旅行も障害者と一緒に苦労しながら乗り切るとか、誰かの自立支援に取り組むとか、そういう機会に力を出してもらうことが大きな字びになると信じています。

日々の障害者の担当は変わりますが、個別支援計画の担当は、1年ぐらいは同じ人で担当してもらいます。すべて（介護派遣）、ナビ（計画相談）、リオ（グループホーム）の担当者からの情報も収集して、ご家族からおうちでの様子もいろいろお聞きして、連携を取りながら、生活全体を把握してほんにんはなしを聞きながら、本人の話を聞いて考えてくれていると思います。



ちゅうぶのパワーアップ

堀：スタッフのパワーアップ、ちゅうぶの発展という意味では、もっとめざしておきたいこととかありますか？ちゅうぶ40周年の区切りに際して。

中野：ちゅうぶのスローガンは200万回の選択ですが、それが実現できる社会ってどんなものだろうか、語り合いのワークショップをしてみたいですね。

ね。その語りの中から、新たな活動を作っていくたいです。

自立障害者をもっと増やしていこうとか、障害者と
ガンガン外出して、旅行に行こうとか、学校交流で
関わる学校を増やしていこうとか、自分ごとにできる
方針をみんなで創っていきたい。

みずか もしょくいん ふ 自ら燃える職員を増やす

僕は、オモロイ団体で仕事をしたいと思っているので、自分から燃える職員がたくさんいてくれたらいいなと思っています。

キーワードとしては「自燃型」の人間ですね。「他燃型」もいいのですが、「やりたい！」という人から燃え移されて、やる気になる人が「他燃型」ですね。「不燃型」は少なくなってほしい。

堀: そうですね。素敵ですね。でも、燃えなくても、安定的に存在してくれて、ちゃんと支えになって安心を作ってくれていることも大事ですよね。

中野: そうですね。全員が燃えると火事になって大変ですね。

さんかがた しゅうねんきねん 参加型の40周年記念イベントをしたい

中野: 40周年のイベントをしたいですね。それに向けてワークショップを組んでいくとか。あとは、35周年の時に、濱田君がすごい動画を作ってくれたけれど、40周年も次世代に残せる動画が作れたらいいな。

他団体の人からもアドバイスを頂けるようなワークショップ、参加型のお祭りのようなイベントがいいなと思っています。僕と小坪くんが担当ですが、まだ頭の中にあるだけの感じです。
40周年記念グッズもつくりたいなあ。

堀: ちゅうぶの歌を作るのはどうですか？

中野: うーん、誰も歌ってくれなかつたら、困るなあ

(笑)。

たの 楽しくダンスをしながら取り組もう

堀: 最後に職員へのエールをお願いします。

中野: 運動や事業の取り組みをしていると苦労は多いですが、僕は、「笑いながら、楽しくダンスする」ぐらいの感じでやろう！って伝えたいです。



深刻な問題も、大変な問題も、楽しく取り組めたらいいなと、絶対にうまくいきます！だいたいの問題は、うまくいくように努力したら、なんとかなるもんです。うまくいきます。

しんどいことをしんどいと思いながらやると、しんどさだけが残ります。「しんどいことも、楽しくやろう」、「楽しく進んでいきましょう」と伝えたいです。

堀: 長時間に渡り、ありがとうございました。
40周年イベント、楽しみにしたいです。

矢田北小学校6年生との交流授業報告

7月5日(金)3時間目の時間をお借りして、矢田北小6年生のクラスにおじゃましました。今回参加したのは赤おにの増永と、スタッフ齊城です。

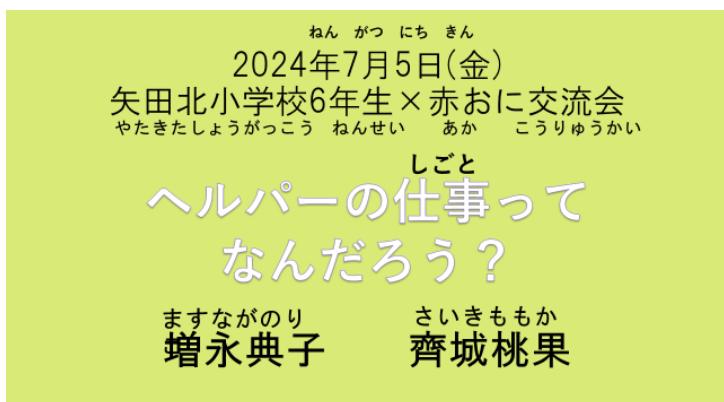
矢田北小学校は、毎年学年ごとに交流に呼んでくださりお世話になっています。

今回、増永さんは初の学校交流デビューでした。

交流のテーマは「キャリア教育」ということで、赤おにで仕事、福祉の仕事についてお話をさせてもらいました。

ここからは当日の資料とともに、簡単に講演の内容を紹介させられます。

まず、6年生のみなさんに『将来の夢はありますか?』と問いかけたところ、たくさんの手があがり、何人かが教えてくれました。



ちなみに増永さんは看護師、齊城はパティシエになることが当時の夢でした。

なぜ現在福祉の世界で働いているのか、そのきっかけの一つである私が子どもの頃にたまたま見たテレビ番

組の話をしました。

そしてなぜヘルパーの仕事が
必要なのか、ヘルパーは具体的に
どんなことをするのか（買い物、
お風呂、朝の身だしなみ、調理、
買い物etc）、動画や写真をまじ
えて紹介しました。

“障害があっても、人の力を借りて
自己選択・自己決定すること”



ちゅうぶでは『200万回の
選択』をモットーに、重度の
障害があっても自己選択・
自己決定できる社会作りを目指
していますが、障害者の選択
や生活のサポートを通して、ヘル
パー自身も未知の世界を経験す
るという面白さがあるということ
を伝えました。

今回、小学6年生のみなさんにどんな話しか方をすれば伝わるか悩みましたがみなさんが
真剣に話を聞いてくれて嬉しかったです。改めて自分の仕事について見つめなおす良い
機会となりました。

その人らしい生活と一緒に作る仕事



そして障害者と一緒に、自分も
知らない世界を経験していく

福祉はもっと、はば広い



ふだんの



くらしの



しあわせ

じぶん おも の はし 自分の想いを乗せて走らせよう！！

よんく こうりゅうかい さんか アットマーク
ミニ四駆 交流会に参加 @ ぱあとなあ

がつ にち
7月19日にミニ四駆交流会が「ぱあとなあ」でありました。

なかむら こどものとき おとな
中村は子供の時にやったきりで大人になってから触れたことはありませんでした。

よんく も
ミニ四駆を持ってなかったメンバーの青木君、ちゅうぶへの就職を希望している杉原君と一緒になんば
エディオンに購入に行きました。交流会前日に組み立て、細かい作業で大変でした。

こうりゅうかい ひさ
交流会では、久しぶりに「ぱあとなあ」や「夢宙センター」のメンバーと会いました。



ミニ四駆に詳しい人がたくさんいました。

初心者の中村は、ミニ四駆トークを聞くだけでも面白かったです。

「爆走兄弟レツツ&ゴー」から好きになった人が多かったです。

この日、「ぱあとなあ」ミニ四駆専用コースの初お披露目もあり、メンバーのみならず、ヘルパーや興味ある人全員で楽しめました。

ミニ四駆は自分で改造するのもおもしろいです。

レースはスピード感が早く、コースから脱線して部屋の中を走りまくるミニ四駆もあって白熱しました。
これからもミニ四駆を通して、色々な人と交流したいです。

(文責:中村)





じりつせいかつ
自立生活センター・ナビ
からのお知らせ

ヘルプセンター・あるる研修会 ～障害の理解～

みなさん、こんにちは。自立生活センター・ナビの山下です。今回は、5月30日(木)に行なわれたNPO法人あるるヘルプセンター・あるる研修会 障害の理解について、山下と障害者活動センター・青おに障害当事者の森園宙さんと一緒に講師として参加しました。遅くなりましたが、報告したいと思います。

まず最初にNPO法人ちゅうぶのスローガンについての動画を観てもらい、自立生活センター・ナビの役割を説明し、ちゅうぶが今取り組んでいる取り組み(USJの不当な差別的対応や段差戦隊ジメンジャー)をお話したあとに、森園さん、山下の生活史を発表させていただきました。質疑応答では「ヘルパーに指示する時に気付いていることは?」「口もききたくない日や、しんどい時もヘルパーに入ってもらわないといけないと思うのですが、どうやって過ごされるのですか?」「生活介護のメンバー。モチベーションが無い人にはどうアプローチしていますか?」などたくさん質問していただきました。



赤おにや青おにの活動の様子も見てもらいました。

【研修に参加していただいた方々の感想】

- ・生活介護でも、自由にやりたいことをしているのをすごく感じます。あるるに持ち帰って次に生かせていければと思います。
- ・あるるしか知らなかつたので、特色や知らないことを知れた。
- ・印象的だったのは、メンバーに1対1でスタッフが付いている事。ちゅうぶのやりたいことがそこに集約されると感じた。あるるでもメンバーの声を活かすことにつなげていきたい。
- ・皆さんのがポジティブに話されているなと思った。自分のやりたいことができてるからかなと思う。生き生きとされていた
- ・みんな手話ができてすごいと思った。メンバー、スタッフみんながコミュニケーションをとれるのがすごいと思った。
- ・40年の重み。支援体制の厚さがすごい。自立までの話を聞いて、自分自身原点に振り返るきっかけになった。ありがとうございました。
- ・すべてが新鮮。はっとしたのは、元気がない状況で介護に入つてほしくないことや、介護のとき待つてほしいということでした。

【森園さんと山下の感想】

●改めて研修の講師をする機会はあまりなかったので、とても緊張しました。ちゅうぶのスローガンの200万回の選択は選択やILP(自立生活プログラム)の大切さが改めてわかりました。なかなかこの研修講師をしてみて、感じたことは普段ちゅうぶの中にいると当たり前に毎日しては自分で活動を決めて外出したり、作業をしたりすることにあるの方々が驚かれていました。自由に活動するって大事だけど、なかなか出来ないことなんだなあと感じました。作業所を案内している時に、あるの方々が手作業のミシンを使っている様子に感動されていました。自分たちのやっている活動を外から意見とか感想を言ってもらえる機会が良かったなあと思います。やっぱり他団体との交流は大事だなと思います。私もぜひ今度はあるるさんに研修に行きたいなと思いました。

●あるるさんは、段差戦隊ジメンジャー(歩道と車道の段差問題)で関わらせてもらっていましたが、法人の理念や、ちゅうぶの取り組み、生活史をお話しさせていただくのは初めてでした。みなさん、たくさん質問していただきました。活動内容など、それぞれ違うところもあるし似ているところもあるということが改めてわかりました。これからも、いろんな活動を通じて繋がっていきたいと思いました。ありがとうございました。



なつ 夏のカラオケ

どくしゃ みなさま ひさ さいえんにっきたんとう はぎはら こんかい わたし ごとう さそ
読者の皆様お久しぶりです！菜園日記担当の萩原です！今回は私が後藤さんを誘つ

い ごとう つうしん か ていあん
てカラオケに行ったことを後藤さんから『このことを通信に書きませんか？』と提案さ

れたので、キーボードを叩いております。久しぶりで拙い文章になりますがどうか

みなさま ようしゃ
皆様ご容赦ください。

さ がつか わたし い おも た ごとう さそ いた
去る7月2日に私が『よし！カラオケに行こう！』と思い立って後藤さんをお誘い致しました。

ばしょ あべのてん あべのてんうらぐちで ま
場所はジャンカラ阿倍野店ツタヤ阿倍野店裏口出て間もなく、あべのキューズモールと
ろめんでんしゃ あべのすじ はさ なな む りっち
路面電車が走っている阿倍野筋を挟んで、斜め向かいに立地しています。



ごとう せんきょく
後藤さんの選曲センスもなかなかにしぶいものがありまして、サライなどは私の子供

じだい じかん ほうふつ
時代の24時間マラソンを彷彿とさせます。というかもはや24時間マラソンのイメージが

あまりにも強すぎてこの歌は24時間マラソンしか思い浮かばないと強く感じました。

わらい
(笑)

なん うた うた
えっ『あなたは何の歌を歌ったんだ?』って?私の場合になりますがポルノグラフィ

はまさき とく はまさき
ティや浜崎あゆみあたりです、特に浜崎あゆみは私の学生時代に異様な程に

だいりゅうこういた しょくじ
大流行致しました。食事のメニューに関することですが、はっきりと申し上げておい

しかったです。

しょくじ
カラオケの食事=イマイチでんまりおいしくない。という思い込みをおもちの方もた

おも へんけん かた ぜひ あし はこ
くさんいらっしゃると思います、そんな偏見をおもちの方は是非カラオケに足を運んで

しょくじ いちどめ あ
カラオケの食事を一度召し上がってみてください。近隣のちょっとしたファミリーレス

ひってき あじ かくじつ
トランに匹敵する味には確実になっていると思います。自信をもってオススメ致しま

ごとう いっしょ
す!!後藤さん一緒にカラオケに行けて本当に楽しかったです。この場を借りて

かんしゃもう あ
感謝申し上げます、ありがとうございました!!

はぎはら
(萩原)



ひろこ　へや 寛子の部屋

去る7月19日、今回のゲストの萩原梢さんが、筆者の部屋に遊びに来てくれました。

これまで何度も何度か声掛けはしていましたが、諸事情が重なり、なかなかできませんでした。

ようやく実現し、筆者もホッとしています。

年齢も全く違う二人、意外な共通点が一つあるのを、みなさんはご存知でしょうか？

それは・・・彼女も筆者も夜間高校出身です。ただ時代が違うので、全てが同じというわけではありませんが。

そんなこともあり、萩原さんのことが気になってはいました。部屋に呼ぼうと思ったのは、彼女も自立を目指しており、少しでも力になれたらという思いがあったからでした。

当日は扈から出発、部屋でまずは一服。お互いに質問しあいながら楽しいひとときを過ごしました。萩原さんからは、ヘルパーの付け方やお金のことなどを聞かれました。筆者からは、グループホームに入居したらどんな生活がしてみたいかを聞きました。

話を聞いて、筆者がグループホームに入居した頃を思い出しました。萩原さん、楽しいお話をありがとうございました。（後藤）



きょうりょくかいひ

きょうりょくしゃめいほ

協力会費・カンパ協力者名簿

はまだ じゅんいち ちはる
浜田 純一・千晴 さん
ふくなが かずひろ
福永 一洋 さん

よこはまし
(横浜市)
ひがしうみよしく
(東住吉区)

いそざき しょういち
磯崎 章一 さん

みやこじまく
(都島区)

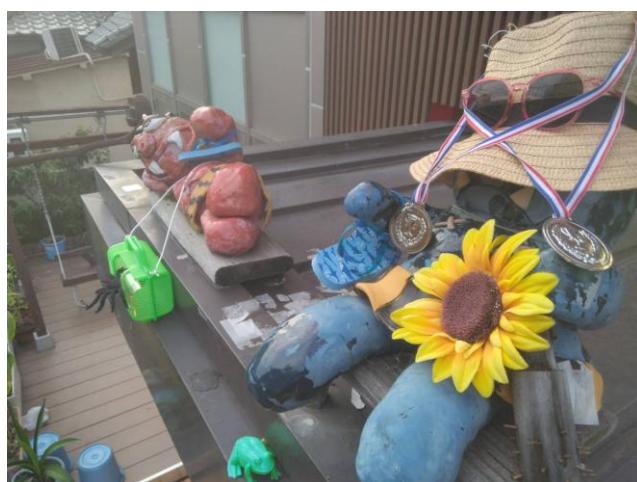
がつ にちげんざい
7月29日現在

きょうりょく
ご協力ありがとうございました (担当: 安東) たんとう あんどう

「しんさつをしんさつ」



※新札は本物です。唯一、総務部が持っていました。(7/24時点)



パリオリンピック、開幕。

あか 赤おにくん:

「一寸法師がフェンシングで、桃太郎が剣道で、金太郎が柔道でオリンピックにでるらしいよ」

あか 赤おにくん: 「オリンピックの競技に剣道はないよ」

あか 赤おにくん: 「ボクらも出ようよ、オニゴッコが得意だから陸上競技とか…」

あか 赤おにくん: 「裏方のコーチでいいんじゃない、オニコーチで」

あか 赤おにくん:

「選手の皆さん、どんな結果になろうと、実力を出し切れるよう頑張ってくださいね。オニの目にも涙の感動を、真夏の大冒険を期待してるよ」

2024年7月～8月スケジュール									
8月28日	水	29日(木)	30日(金)	AIピーコー	てんのうじたいがく	じゅうどほうもんかいここうざ	してんのうじたいがく	はひきのし	四天王寺大学・重度訪問介護講座 @四天王寺大学(羽曳野市)
9月6日	金	～7日(土)	ちゅうぶ防災一泊企画	ほうさいいっぽくきかく	じむしょ	かいよてい	ちゅうぶ事務所(1階、4階予定)		
9月15日	日	16日(月祝)	バリアフリー演劇祭	えんげきさい	もり	みやりいようだいがくたいいくかん	えき	げきだん	かぜほか
9月22日	日	今川ちゅうぶ寄席(自で聴く落語)2	まきらん	あらはなにん	わら	きょうさん	じ	じゅうぶ	かい
9月28日	土	29日(日)ポムハウス喫痰吸引等3研修(3号研修)	かくらきゅうとう	けんしゅう	ごうけんしゅう		@ちゅうぶ		
10月5日	土	なんばおにごっこ7(インクルジョーンズ!)	セブン	じ	じ	しきうこう	リバーブレイス解散	かいきん	

●今年1月に65歳になった。ちゅうぶの定年は超えたが仕事は継続。体力は變らずだが、目は緑内障もあり疲れやすい。パソコン作業に集中したり、本を読むのはつらい、というか元々そんなに読んで無いが、新聞は見出し以外読むのはちょっと根性がいる。世間では65歳～高齢者ということでいろんな割引がある。半額、無料が多い。ビールには適用されないが…。今年10月29日から12月14日までの48日間、大阪城天守閣に上がるエレベーターが工事で使えない。代替手段をいろいろ試したがダメで、「階段を4人で担ぐ」案で動きつつある。20年前までは駅にエレベーターなんて無かったので日常の風景でしたが、今では誰も経験していない。大変だが危険性はない。かつては駅員もヘルパーも毎日やっていた。もちろん重い電動車いすなどは無理だが、修学旅行できた障害者だけが天守閣に上がれなくて違うコースなんて事態は避けたい。あくまで大阪市の事業なのでどうなることやら。ちなみに天守閣入場料は600円ですが、障害者十介護者1名、65歳以上は無料です。10月5日(土)には4年ぶりに、なんばおにごっこ7をやります。コロナ禍で2019年から中断していました。コロナ禍の間に地下街⇒南海がスロープ化されたりしています。楽しみです！（いしだ）

●久しぶりの編集後記。前回から変わったこととして、ついに40歳となった。不惑の年。そして、前厄の年。今年の初詣はあびこ銀音にお参りに行った。いまのところ悪いことは起きていない。こういうことを気にしないようで気にする。40歳となったとしても、特に変わりはない。変わりたいことよりも、変わらないでいたいことは、クリエイティブであり続けたいということ。イベントやものづくりで、小さくとも楽しい、おもしろいものをつくれたらと思う。いま『なんばおにごっこ』のチラシをつくっている。2019年以来の開催だそう。2020年に入職した僕にはどんなイベントか、過去の資料でしか知るすべがない。どんなイベントなのか、いまから楽しみである。まずはいい感じのチラシをつくって、みなさまに楽しんでもらえたらと思う。（うらかた）

●私もとっくに50歳を過ぎ悲しいですが、年々心身の衰えを感じ日々を送っております。今年は白内障の手術から始まり、火傷したり、ハチに刺されたり、自転車で何度も転げたり、あげくには椎間板を悪くし腰痛との付き合いになったり、振り返れば色々な病院へはしごしている…。ある意味当たり年です（笑）体力も下がると気持ちも下がるという悪循環ですですが、ボチボチと上げれるよう頑張れーっ自分！！話は変わり、私の姉が6月に60歳で定年退職することを選びました。同じ会社で40年以上勤め上げ、退職金をガッポリ？かは知りませんがもらったようです。感慨深いのが、姉が60歳になる日が来るなんて想像していなかったです。それと40年以上同じ会社で働くというのは正直スゴイの一言でリスクpectしてあります。そもそも姉の方が優秀ですが、姉妹でこんなに違うものかと思ったり思わなかったり（笑）（かわさき）

【東住吉区障がい者基幹相談支援センター】
【自立生活センター・ナビ】
〒546-0042 東住吉区 西今川2-3-8
TEL: 06 (6760) 2671
FAX: 06 (6760) 2672

【障害者活動センター 赤おに】
〒546-0031 東住吉区 田辺5-6-10
TEL: 06 (6623) 7300
FAX: 06 (6657) 5010

【グループホーム・リオ】
〒546-0032 東住吉区 東田辺
TEL: 06 (6608) 5244
【ヘルプセンター・すてっぷ】
NPO法人ちゅうぶ 2階
TEL: 06 (4703) 3741
FAX: 06 (6628) 0271

【障害者活動センター 青おに】
NPO法人ちゅうぶ 1階
TEL: 06 (4703) 3742
FAX: 06 (4703) 3743

編集：特定非営利活動法人
エヌヒーラーほうじん
【NPO法人 ちゅうぶ】
〒546-0031
おおさかしひがしまよしくたなべ
大阪市東住吉区田辺5-5-20
TEL: 06 (4703) 3740
FAX: 06 (6628) 0271

ホームページ：<https://npochubu.com/>
メールアドレス：chubu@npochubu.com
郵便振込口座：00960-6-313427
通信定期購読料：1年間2,000円